

委員会だより

災害・救急委員会

当委員会は佐藤裕二副院長を委員長に総勢24名の委員で構成されています。災害時の対応や救急患者様の対応などを検討することが主な活動内容です。今年度は、昨年度よりひきつづいていた災害救急マニュアルの改訂・第2救急室の整備・救急カートの見直しなどが施行され、その後の効果検証や不備な点がないかの検討を主に行いました。

幸い大きな災害や救急患者様のトラブルがなく1

年の任期を過ごすことができました。今後とも地域の中核病院の重要な役割の一つとして救急医療の充実・災害時における活動などについてさらに議論を深め活発に活動していくことを願っています。

副委員長 竹林 武宏

(文責：竹林 武宏)

安全衛生委員会

安全衛生委員会は、病院内における感染、衛生等に関する各種危険を未然に回避し、患者、職員、その他の病院に出入りする関係者の安全衛生を守ることを使命とします。

安全衛生委員会および安全衛生小委員会（感染対策小委員会）は毎月の定例委員会で、次の内容の活動を、また毎月院内巡視を行っています。

1. 院内感染サーベイランス：病棟におけるMRSA、緑膿菌、結核、ウイルス、等の発生を調査し、院内感染を予防する。
2. 厚生労働省の院内感染サーベイランス：厚生労働省の敗血症、髄膜炎症例に関する全国調査に協力する。
3. 厨房の細菌検査：厨房の器具等の食中毒菌発生の有無を毎月調査する。
4. 針刺し事故：職員の針刺し事故を調査し、予防策を検討する。事故発生時は、HB、HCV、AIDS、梅毒感染のマニュアルに従って対応する。
5. 井水（冷却水、トイレ排水）：2ヶ月に1度レジオネラ菌の有無を調べる。
6. 感染性廃棄物（100L、70L、25L、10L 容器）につきプラスチック容器、ダンボール箱、総重量

を、非感染性廃棄物（10L 容器）についてはアルコール、キシレン、ホルマリン、塩酸含有液の排出量を毎月調べ、適切な医療廃棄が行われるよう指導する。

7. 感染対策マニュアル：針刺し事故対策、開放性結核発症時対策、職員採用時ツ反、INH 予防内服、職員食中毒発生時、SARS 対策マニュアル等の作成・整備を進める。
8. 職員の院内感染予防対策に関し、病院健康管理医に協力する。
9. 院内巡視を行い、適切な感染管理が行われているか自己点検する。
10. その他、安全衛生に関する諸問題につき、適宜、小委員会にて対応する。

今年も不注意による針刺し事故が多数発生しました。もう少しの注意で未然に防ぐ事が出来た事故も少なからずありました。誤刺予防には、結局は各自の自覚が最も重要です。

今年度は、抗生物質使用の院内規定作成の予定です。ご協力をお願い致します。

(文責：高岡 和夫)

禁煙推進委員会

当委員会の平成17年度に行った活動としては、前年度の最後に行った活動であった「当院での客待ちは、禁煙タクシーのみ」としたことから始まりました。

5月28日から6月3日までは、第17回世界禁煙週間としてエントランスホールでの禁煙週間の「横断幕」と「世界の禁煙ポスター」の展示を行いました。

さらに、5月31日から6月30日までの一ヶ月間を平成12年から実施している「禁煙パトロール強化月間」として、全職員が交代でパトロールに参加しました。

禁煙支援小委員会では、例年どおりに退院患者に対するアンケート調査を行いました（回収率74%）。

平成18年2月11～12日には、松山市において開催された第15回日本禁煙医師歯科医師連盟総会・第2回禁煙学会に、その学会員である宇加江医師と高橋医師が参加し、「病院・敷地内全面禁煙後の禁煙推進活動について」の発表を行いました。

禁煙外来小委員会では、平成18年4月から禁煙外来が保険診療で行えるようになる予定のため「禁煙外来マニュアル」の見直しの準備に入りました。

今後も、活動がマンネリしていかないように一つ一つの行事を確認しながら行っていきたいと思っています。

（文責：江口 精一）

倫理委員会

札幌社会保険総合病院倫理委員会は、当院に所属する職員が行う医学上の研究あるいは医療行為等について、厚生労働省等のガイドラインを踏襲し、倫理的な観点から審議することを目的として活動しています。

平成17年度は、次の案件について審議されました。

- 1 進行・再発胃癌に対するTXT-TS-5併用療法（DS）とCDDP+5-FU併用療法（EUP）の無作為化比較Ⅱ相臨床試験（外科）
- 2 心肺蘇生を行わないことに関する同意書（案）の運用について（審議継続）
- 3 札幌社会保険総合病院個人情報保護規定について
- 4 抗癌剤感受性試験（CD-CST法）の肺癌への適応拡大のための基礎的臨床研究同意書および説明書について（呼吸器内科）

- 5 小児気管支喘息におけるツロブテロール貼付剤長期使用時の有用性と使用前後の吸入 β 2刺激剤に対する反応性の検討について（小児科）
- 6 心肺蘇生を行わないことに関する同意書（案）の運用について（再審議）

委員長 関谷 千尋

副委員長 佐藤 裕二

委員 大西 勝憲・高橋 秀史・宝達 都
小泉由貴美・斉藤 淳巳・竹本 功
高橋 誠（書記）

外部囑託 和田 龍彦（北大教授）

桶谷 治（弁護士）

（文責：高橋 誠）

抗癌剤適応委員会

平成16年11月1日付で、「抗癌剤感受性試験」が高度先進医療として認可されたのを受けて、平成16年12月1日付で、「抗癌剤適応委員会」が設置された。その中で、規約、マニュアル、広報活動などが整備されて今日に至っている。基本料金が35000円

であり、検体量が必ずしも十分でなく、昨年度は12検体で9検体のみの結果となっている。今後は十分な検体量と迅速な搬送による効率的な「抗癌剤感受性試験」が課題と思われる。

(文責：高橋 秀史)

安全管理委員会

平成16年に安全管理部の大幅な組織変更が行われ、この時に、軽微な処置・治療を行ったものはアクシデントからインシデントに変更されたと同時に、安全管理委員会は安全管理の対策などをより実効性のあるものとするために独立して設置された。安全管理部と連携し、実効性のある対策を重視し、ワーク

ショップ形式の安全管理研修や自己点検マニュアルの整備などの活動をサポートしてきた。今後とも、安全管理対策の浸透を計り、実効性のある安全管理の推進が求められている。

(文責：高橋 秀史)

治験委員会

北海道農学部和田龍彦教授を外部委嘱委員に迎え2カ月に1回開催されています。主な活動について報告いたします。

(1) 治験第IV相試験

保険に認可された薬の効果や副作用に関する調査のことです。薬が医療現場で多数の患者さんに使用された場合、市販前の治験で収集された副作用が市販後に増加するのか、また市販前には経験されなかった副作用が出現しないかどうかの調査が必要になります。また医療財源の無駄な消費を削減するために、治療効果に関しても調査が必要になります。これを市販後特別調査といい、厚生労働省から対象となる薬剤が指定されます。以上の調査をおこなうのが第IV相試験です。当委員会ではこの試験の妥当性について検討しております。

(2) 治験第II、III相試験

厚生労働省が保険薬として認可するかどうかの資料をつくるための調査するのがこの治験の目的です。

したがって試験薬に関する専門医が働いていること、病院全体で試験に対応できる医療施設でしかこの治験をおこなうことができません。具体的には特定の病気の少数の患者さんに実際に使ってもらい、治療効果と副作用を綿密に調査いたします。当委員会では治験を開始するにあたり、この試験の進め方に問題がないか、また患者さんに不利益がないかどうかを審議し、必要に応じて種々のアドバイスを治験責任医師におこなっております。

(3) 治験開始後の重篤な副作用報告、変更事項報告および終了報告とその審議

治験を開始した後に発生した重篤な副作用や病院内外の治験組織の変更点などの報告がなされ、必要に応じて患者さんに情報を提供する必要があります。当委員会ではこの点に関して審議いたします。とくに当院で発生した重篤な副作用に関しては治験責任者に経緯を説明してもらい詳しい検討をおこなっています。また治験を開始して1年を経過した時点で

の経過報告および治験を終了した時には終了報告を委員会でおこない総括をいたします。

(4) クリニカル・リサーチ・コーディネーター

(CRC) 活動

治験第II、III相試験は厚生労働省に薬として認可される前におこなう治験であるために、患者さんの同意取得などその手続きはとても煩雑です。また患者さんにとっては内容が複雑で理解しづらいといわれております。このためCRCが治験責任医師と協力して患者さんに説明をおこなう他、製薬会社によるモニタリングへの協力、治験報告書の作成補助などの業務をおこなったりします。当委員会では

CRC活動を積極的に推進しており、治験ができるだけ円滑に進行するように活動しております。

(5) その他

患者さんが理解しやすいように工夫された治験に関するパンフレットなどを随時作成し、患者さんが判断するための資料として活用していただいております。

委員長 大西 勝憲

(文責：大西 勝憲)

教育研修委員会

教育研修委員会の主な活動について報告する。

医療の原点は患者様に良質の医療サービスを提供することにあると考える。医療サービスはその時代に即したサービスでなければならない。サービスを施設および施設内の医療機器などのハードによるサービスとソフトによるサービスに分けることが可能である。ソフト サービスとは人を介したサービス、いいえかえると常勤、非常勤問わず職員の知識、情報、技術、接遇、院内外他職種間の連携などが該当する。人を介したサービスの向上はいかなる医療機関においても最重点項目といえる。このサービス向上のために医療人は自己学習、研修会による学習や技術研修は避けて通れないことになる。そして良質のサービスは、サービスの受けてである患者の満足につながり、職員の自己実現への動機づけとなる。

当院では人材育成を目的として教育・研修委員会を組織し、職員に医療人としての幅広い知識、情報を獲得してもらうために種々の職業人教育の場を提供してきた。院内LANの病院スケジュールトップ画面に教育・研修スケジュールを記載する欄を作り、

日々開催される院内の研修会や学習会をわかりやすく表示している。職員の方々にいろいろなことに興味をもってもらい、参加してもらうことが研修の出発点と考えている。日本病院機能評価機構では職員研修のあり方について体系づけることを各病院に求めている。当院もその主旨に従い、検討した結果、各科や各部に分かれて記載されていた研修会をまとめて記載することにした。当院では職員研修会、院内学術集会、北辰メディカルフォーラム、研修医ケーススタディカンファレンス、CPC、各診療科の懇談会、看護研修会などのほか放射線部、栄養部、ME部、薬剤部、検査部、リハビリテーション部などが個別で開催している数多くの研修会が存在する。たとえ専門が異なってもそれらの研修会への自発的参加が望まれるところである。これらの研修会では、患者の多種多様なニーズの存在やそのニーズに対する対応方法が検討されており、院内外における連携やチーム医療を遂行する上で、とても大切な情報が得られるものと考えられるからである。

(文責：大西 勝憲)

●CPC

回	開催日	演題名 / 演者
1	5/20(金)	『進行した肝硬変患者の後腹膜出血—健康器具への疑い』 (司会) 消化器科部長 鈴木 岳 病理科部長 高橋 秀史 臨床経過 工藤 立史 (総合医療部・研修医) 看護経過 佐々木彩子 (4東NS) 病理解剖所見 高橋 秀史 (病理科)
2	9/30(金)	『高齢者の膀胱癌—長期にわたる診断と治療』 (司会) 泌尿器科部長 三橋 公美 病理科部長 高橋 秀史 臨床経過 岩見 大基 (泌尿器科) 看護経過 山下裕香梨 (5西NS) 病理解剖所見 高橋 秀史 (病理科)
3	12/7(木)	『発熱を繰り返した患者の副腎腫瘍』 (司会) リウマチ科部長 大西 勝憲 病理科部長 高橋 秀史 臨床経過 近藤 真 (リウマチ科) 看護経過 小瀬亜紗子 (4西NS) 病理解剖所見 高橋 秀史 (病理科)
4	平成18年 2/7(火)	『塵配患者の肺癌』 (司会) 呼吸器科部長 高岡 和夫 病理科部長 高橋 秀史 臨床経過 土肥 勇 (内科・呼吸器科) 看護経過 林 美智子 (3東NS)・両角 憲枝 (3東NS) 病理解剖所見 高橋 秀史 (病理科)
5	5/19(金)	『腹部大動脈瘤手術後の繰り返す消化管出血』 (司会) 消化器部長 鈴木 岳 病理科部長 高橋 秀史 臨床経過 黒木 崇文 (研修医) 看護経過 刈倉 好美 (4東NS) 病理診断 高橋 秀史 (病理部長)
6	9/27(木)	『多発交通外傷後の短小腸症候群と誤嚥性肺炎の一例』 (司会) リウマチ科部長 大西 勝憲 病理科部長 高橋 秀史 臨床経過 古崎 章 (リウマチ科) 看護経過 石田 有美 (4西NS) 病理診断 高橋 秀史 (病理部長)

●職員研修

回	開催日	演題名 / 演者
1	4/4(月)	【新入職員研修】 (司会) 事務局次長 野田 勝之 『医療人としての基本的なマナーについて』 (講師) 太田すみ子 (顧問)
2	5/16(月)	『あなたもできる電氣的除細動』 (司会) 内科・循環器部長 堀田 大介 1 電氣的除細動の適応と役割 笹尾 寿貴 (内科・循環器) 2 最近話題のAEDとは 山尾 健 (内科・循環器) 3 院内における電氣的除細動器の機種と使用方法 真下 泰 (ME部) 4 電氣的除細動器の実践 尾形 仁子 (循環器) 佐々木まり子 (4西NS) 小川 輝之 (ME部)
3	5/30(月)	『DPCにおける服薬の安全管理』～医療安全強化月間(5月)にちなんで～ (司会) 安全管理部長 佐藤 裕二 1 病棟における持込薬の現状と問題 長澤恵美子 (看護局)

		2 持ち込み薬などの安全管理 浅野 尚 (薬剤部) 3 輸液ポンプの安全な使い方 真下 泰 (ME部)
4	9/12(月)	『医療機関における個人情報保護法とその対応策』 (司会) 安全管理部長 佐藤 裕二 1 個人情報保護法成立の背景 (講師) 2 医療機関における個人情報漏洩例 (株)損保ジャパン・リスクマネジメント 3 個人情報漏洩の原因 リスクコンサルティング事業部 医療RM室 4 医療機関における個人情報保護対策の主なポイント 課長 齊藤 祐一 5 個人情報保護に関してよくある質問
5	11/16(火)	『当院における安全管理の取り組み』—医療安全推進週間にちなんで— (司会) 安全管理部長 佐藤 裕二 1 薬剤部の取り組み 浅野 尚 (安全推進担当者・薬剤部係長) 2 医局の取り組み 宇加江 進 (安全推進担当者・小児科部長) 3 看護局の取り組み 平田妃奈子 (4東NS係長) 4 放射線部の取り組み 相川 修二 (放射線部副技師長) 5 検査部の取り組み 小林みち子 (安全推進担当者・検査部係長)

●学術集会

回	開催日	演 題 名 / 演 者
1	4/27(水)	I 学位(薬学博士)論文発表 (司会) 薬剤部長 竹本 功 『薬物体内動態を考慮した抗がん薬治療の至適化に関する研究』井藤 達也 (薬剤部) II 院内検討会 『DPC支払制度における「質の高い医療」をめざして』 (司会) 副院長 大西 勝憲 4西NS科長 佐々木まり子 1 悪性リンパ腫の治療と副作用対策 近藤 真 (内科・リウマチ科) 2 DPC導入前後における看護ケアの比較 樽谷 智 (4西NS) 3 悪性リンパ腫治療における薬剤師の役割 浅野 尚 (薬剤部) 4 DPC導入前後における保険請求の比較と医事課の役割 細谷 達基 (医事課)
2	6/20(月)	I 第50回学術集会を記念して (司会) 病院長 秦 温信 『学術集会が今日の医療で果たす役割』 関谷 千尋 (教育研修委員会委員長) II 院内検討会 『DPC支払制度における「質の高い医療」をめざして』 —外科における癌化学療法に関して— (司会) 外科部長 松岡 伸一 5西NS科長 小嶋 裕美 1 当科における癌化学療法の現状 砂原 正男 (外科) 2 抗癌剤の服薬指導について 福田由布子 (薬剤部) 3 癌患者の化学療法における継続看護 倉田 志保 (5西NS) 4 癌患者の入院医療費のDPC導入前後での比較 江口美恵子 (医事課)
3	9/5(月)	『DPC支払制度における「質の高い医療」をめざして』 (司会) 消化器科部長 鈴木 岳 4東NS科長 伊藤 律子 1 DPC導入前後における保険請求の比較と医事課の役割 木田 勝也 (医事課) 2 持ち込み薬などの安全管理 高木 智史 (消化器科) 3 輸液ポンプの安全な使い方 蓼原あゆみ (4東NS)
4	10/26(水)	『DPC支払制度における「質の高い医療」をめざして』 —大腿骨頸部骨折治療の現状と展望— (司会) 整形外科部長 竹林 武宏 5東NS科長 尾田 和子 1 大腿骨頸部骨折の治療 黒部 恭啓 (整形外科)

